

欧州景気概況(2022年6月)

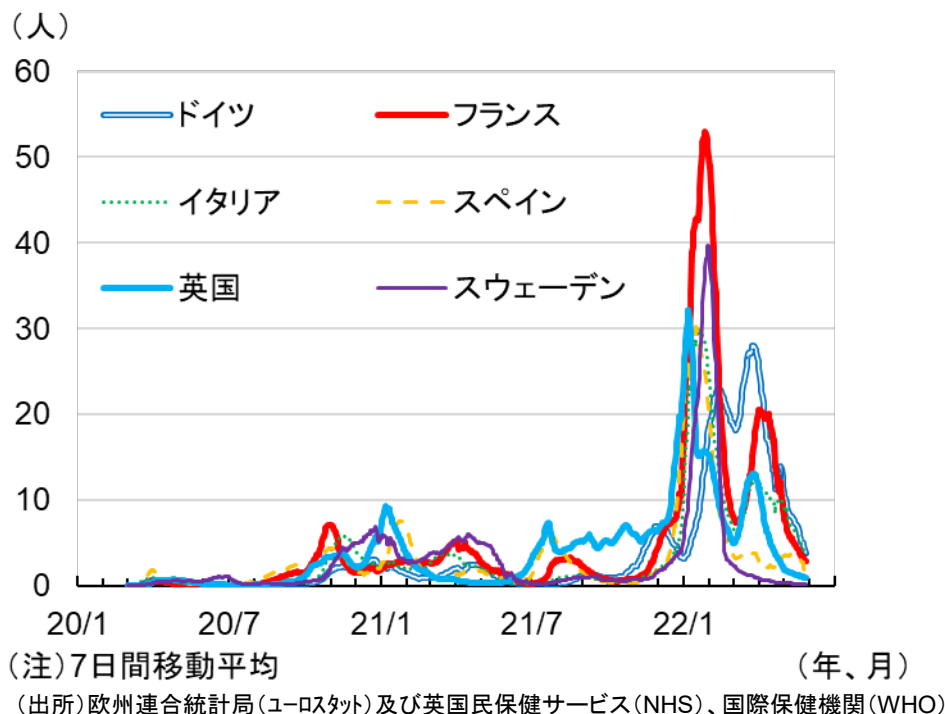
2022年6月3日

調査部 副主任研究員 土田陽介

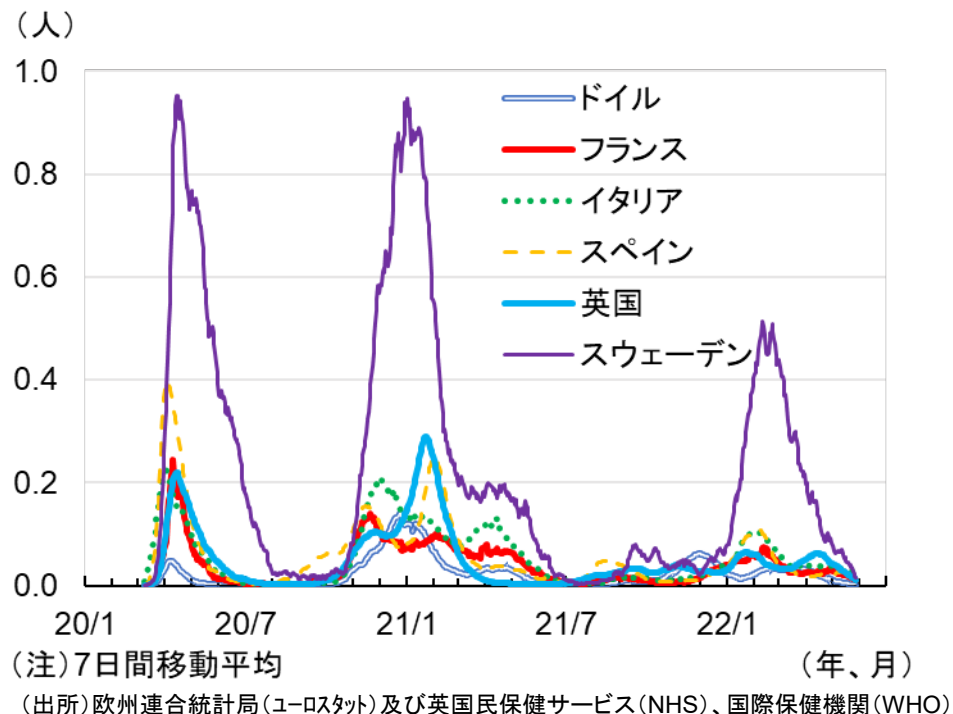
新型コロナウイルスの感染状況

欧州では新型コロナウイルスの新規感染者数及び新規死亡者数ともに拡大が落ち着いた。各国とも行動制限を撤廃しており、景気への負荷は解消されている。

人口一人当たりの新規感染者数



人口百万人当たりの新規死亡者数

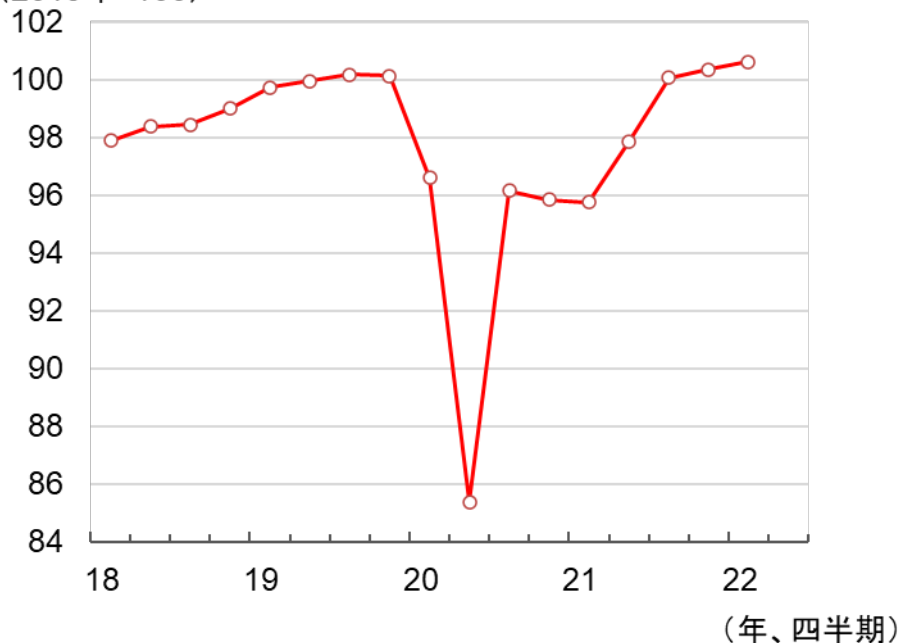


ユーロ圏景気概況① 景気は回復している

ユーロ圏の1-3月期の実質GDPは前期比+0.3%と昨年10-12月(同+0.3%)と同じ伸び率となった。2月下旬以降のロシアのウクライナ侵攻が、エネルギー高などを通じてユーロ圏景気の重荷になった模様。一方で、5月の景況感指数は107.4と3ヶ月ぶりに上昇した。サービス業や建設業の景況感が改善した。

実質GDP

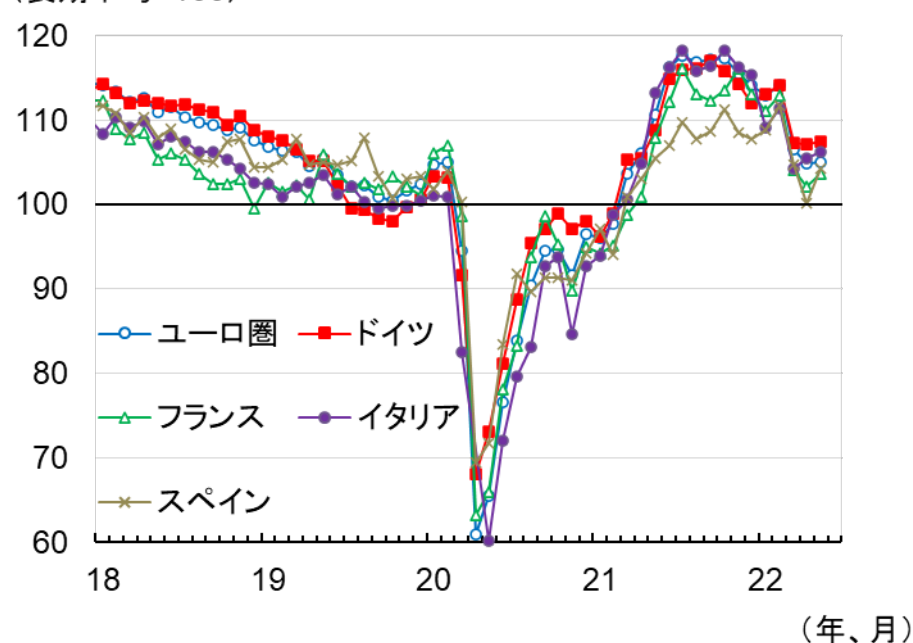
(2019年=100)



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数

(長期平均=100)



(出所) 欧州委員会ECFIN

ユーロ圏景気概況② 生産は悪化

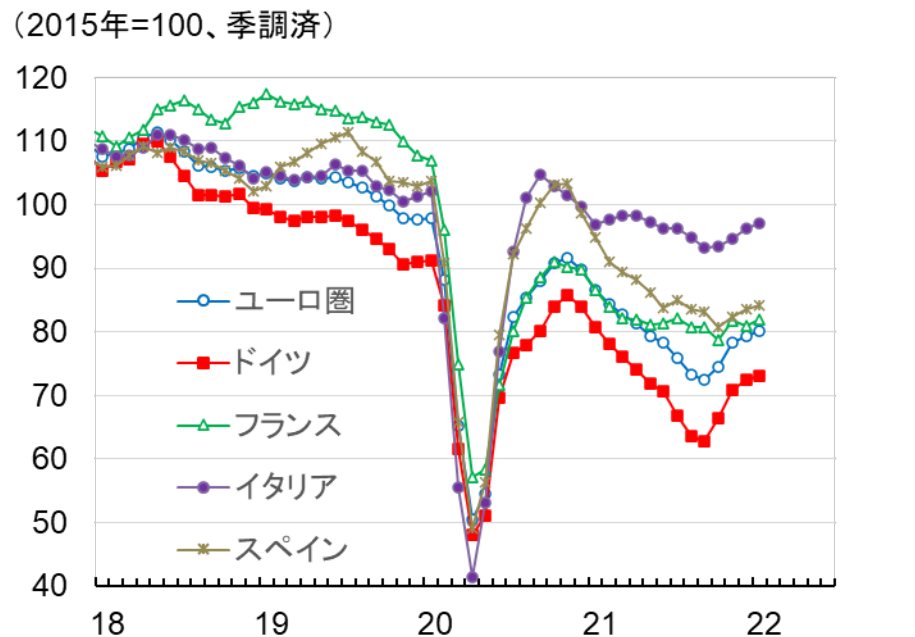
ユーロ圏の3月の鉱工業生産は前月比-1.8%と再びマイナスに転じ、均した動きも下向きとなった。ロシアのウクライナ侵攻に伴うサプライチェーンの混乱が生産を下押しした模様。鉱工業生産ベースで見た自動車生産にも持ち直しの動きに陰りが見られている。

鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

自動車生産台数(鉱工業生産ベース)

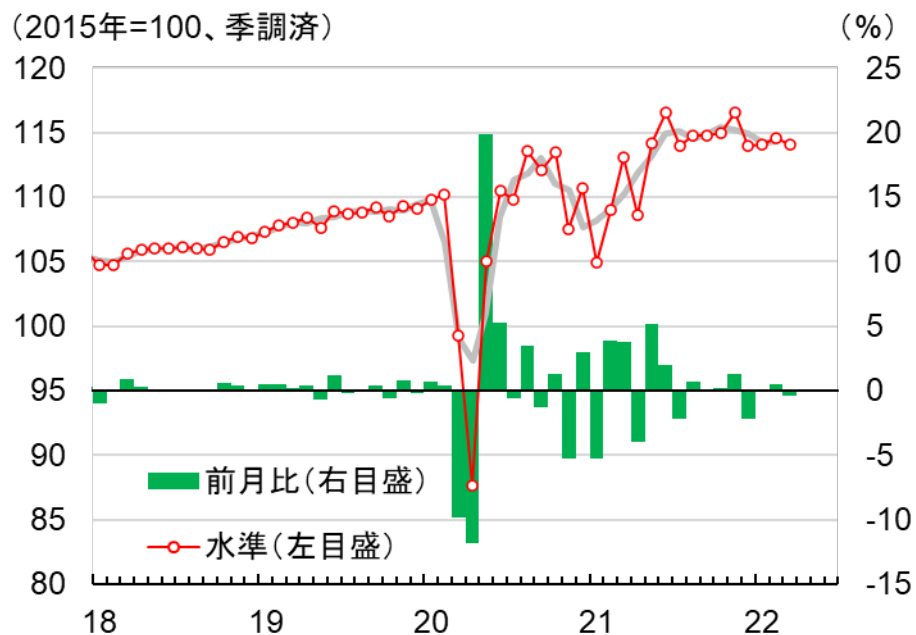


(注) 3ヶ月後方移動平均
(出所) ユーロスタット

ユーロ圏景気概況③ 消費は足踏み

ユーロ圏の3月の小売数量は前月比-0.4%と減少に転じ、均した動きも足踏み。一方で、4月の新車販売台数は前月比+1.1%の年率697万台と小幅な増加にとどまり、均した動きも下向きのままとなった。ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギー高を受けた消費マインドの悪化や、サプライチェーンの混乱の影響を受けた模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ユーロスタット

新車販売台数

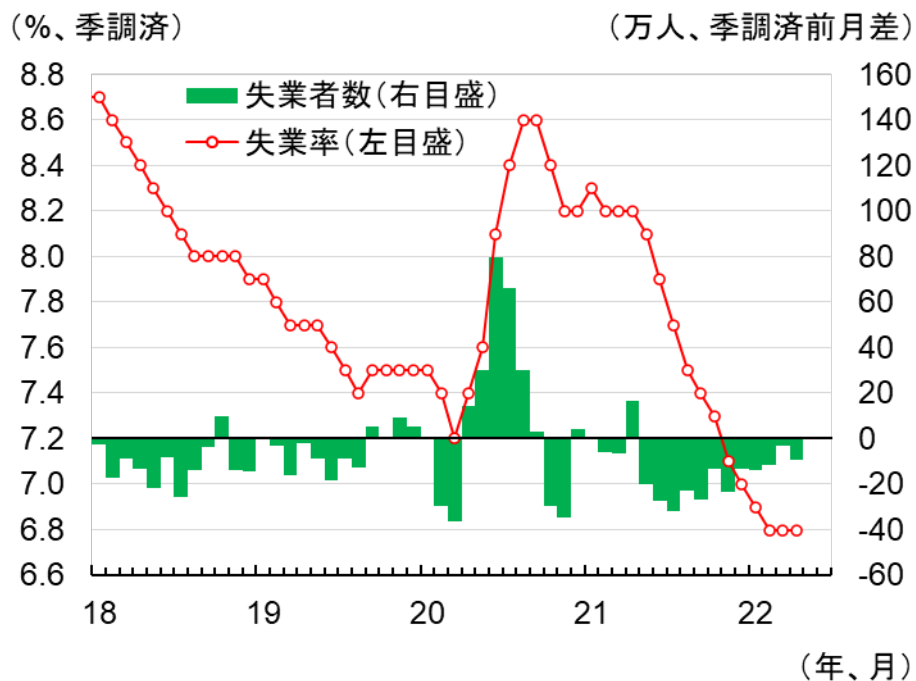


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善

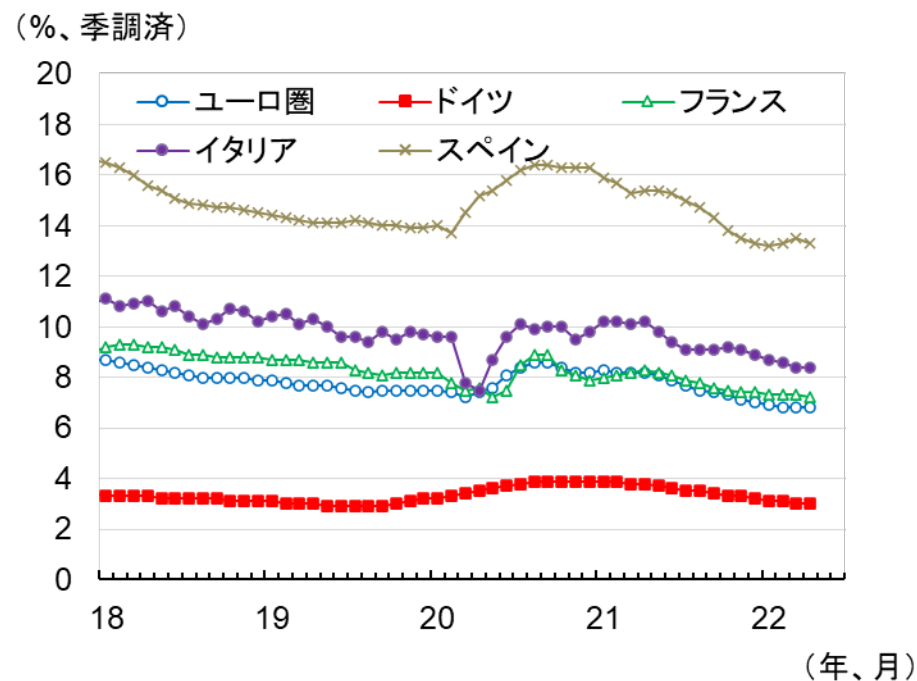
ユーロ圏の4月の雇用統計では、失業率が6.8%と3ヶ月連続で横ばいになった一方で、失業者数は前月比9.6万人減と3月(3.4万人減)からマイナス幅が拡大した。主要国別に失業率を見ても、各国で失業率が下げ止まっている。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

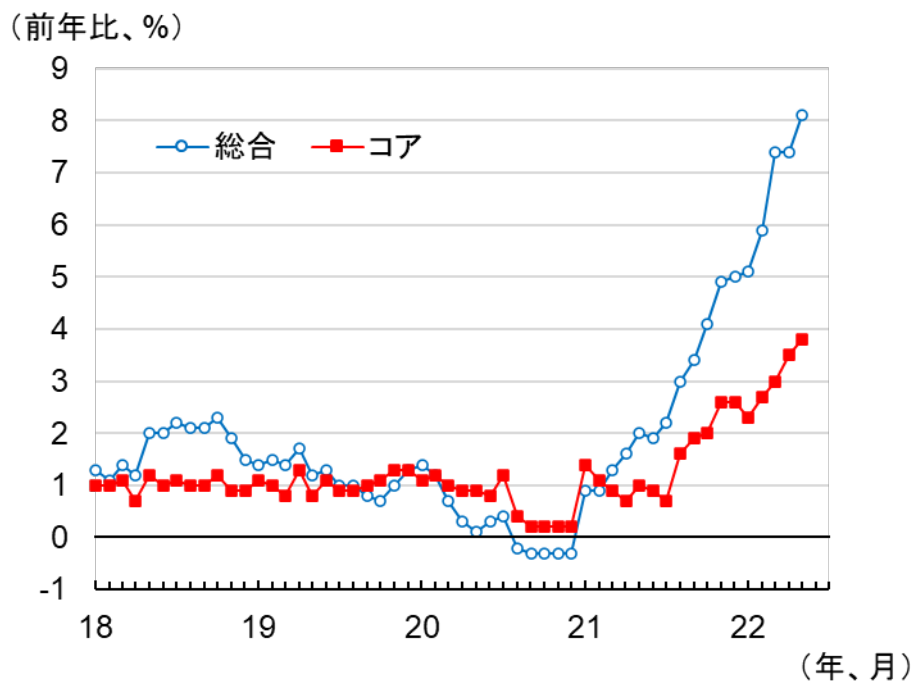


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速

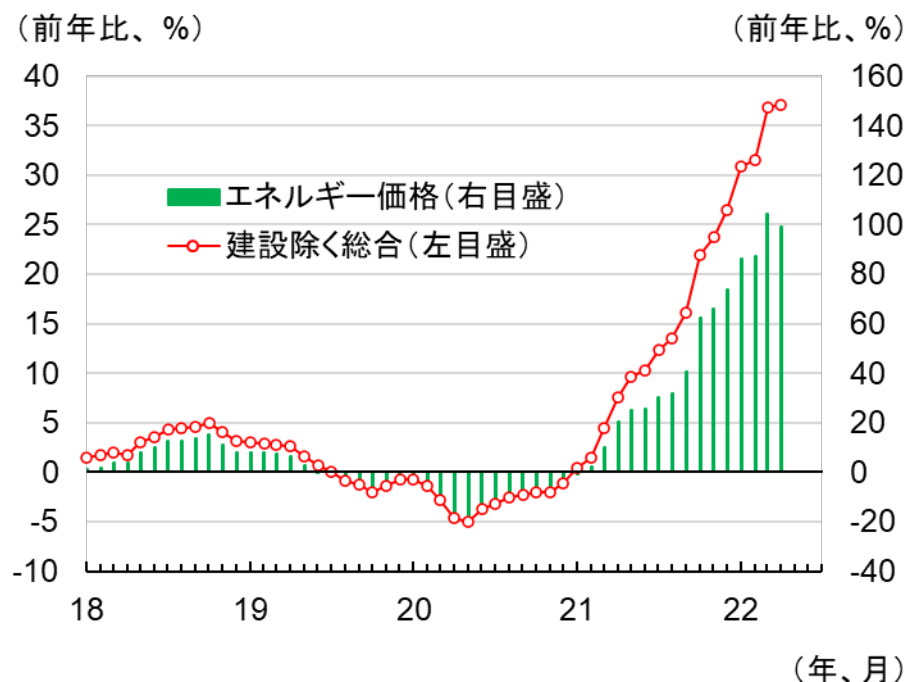
ユーロ圏の5月の消費者物価は前年比+8.1%と、インフレが加速した。先行指標である生産者物価（建設を除くベース）は4月時点で前年比+37.2%と、3月（+36.9%）から小幅な伸びの加速に留まった。うちエネルギー価格は+99.2%と前月（同+104.1%）から伸び率が低下した。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価



(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは7月にも利上げを実施

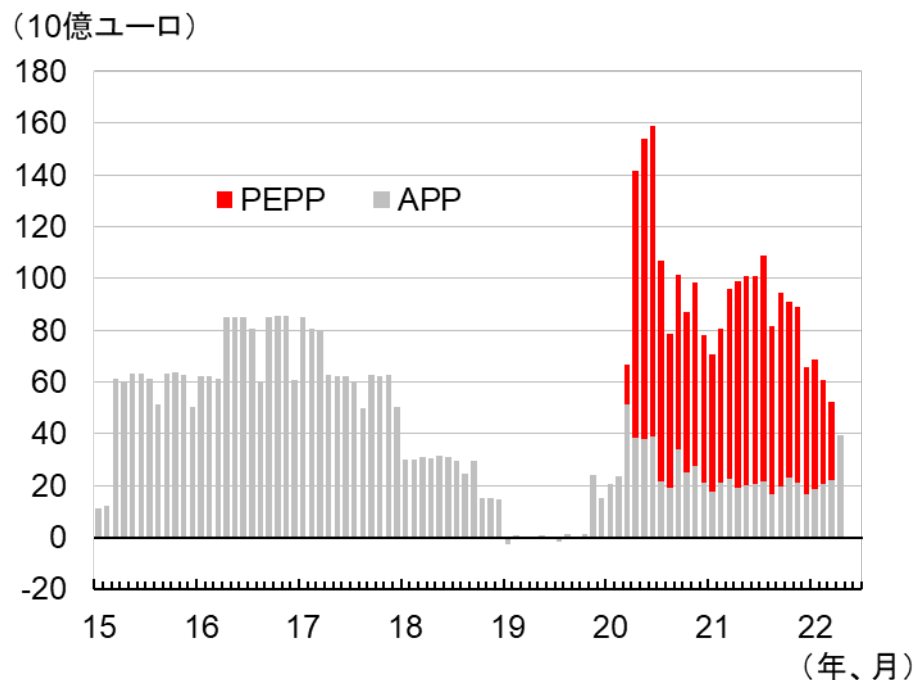
欧州中央銀行(ECB)は4月14日に定例理事会を開催、各種の政策金利を既往の水準に据え置いた。次回の理事会は6月9日だが、市場ではECBが7月21日の理事会で利上げを行うと見込んでおり、ラガルド総裁も利上げに前向きな態度を示した。量的緩和政策に相当する資産購入プログラム(APP)も、早ければ7月で終了する見通し。

ECBの金融緩和パッケージ

内容	2022年3月理事会	2021年12月理事会
政策金利	変更なし	上限金利を年0.25%、主要金利を年0.00%、下限金利を年▲0.50%に据え置く
資産購入プログラム(APP)	4月に400億ユーロ 5月に300億ユーロ 6月以降は200億ユーロ 早ければ7~9月に終了も	4~6月は月400億ユーロ 7~9月は月300億ユーロ 10月以降は最初の利上げまで月200億ユーロ
パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)	変更なし	2022年3月で終了、再投資は2024年末まで
TLTRO3	変更なし	2022年6月で終了
ユーロシステムレポファシリティ(EUREP)	2023年1月15日まで延長	2022年3月終了(決定そのものは2020年12月理事会)

(出所) 欧州中央銀行(ECB)

資産購入の推移

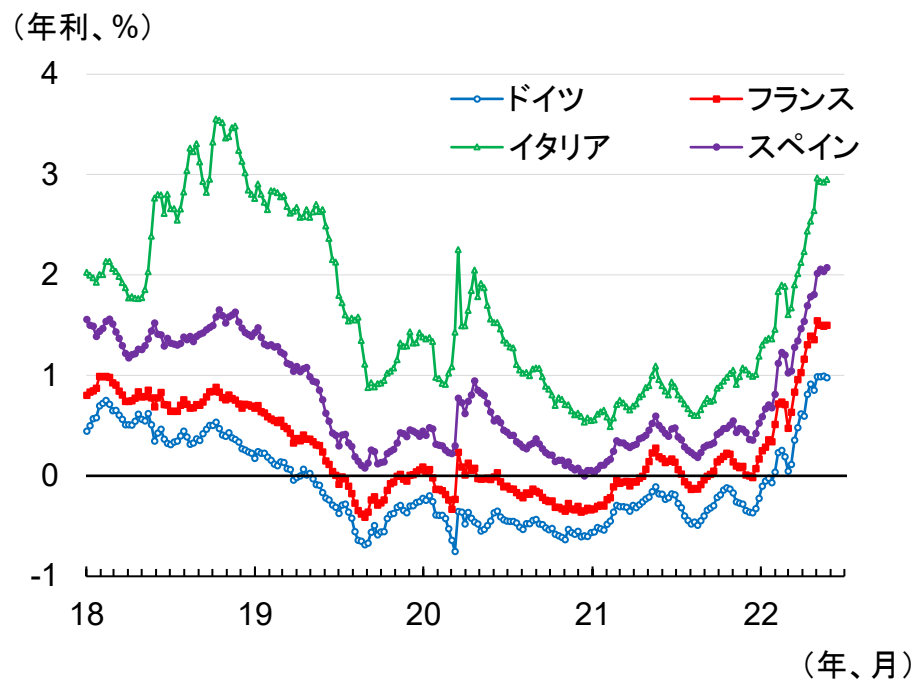


(出所) ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は一進一退、株価は下落後に上昇

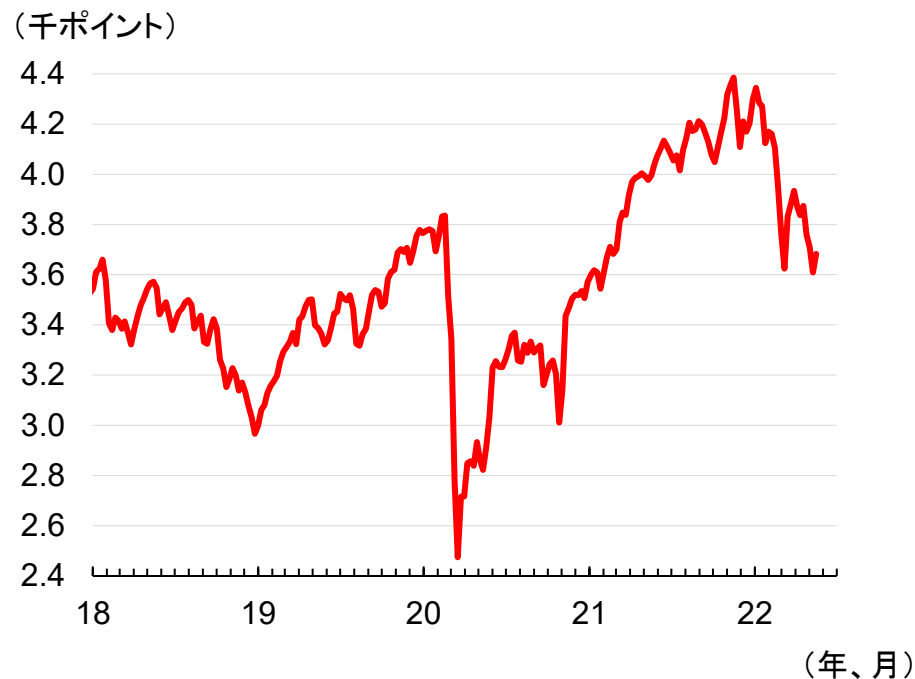
5月のユーロ圏の長期金利は一進一退。ECB高官の利上げ発言や米国の金融政策動向を見据えて神経質な展開となった。一方で、同月のユーロ圏の株価は下落後に上昇した。月前半は米国発の世界的な株安の流れを受けてユーロ圏の株価も下落したが、月後半は金融引き締めへの過度な警戒感が薄れて株価は上昇した。

長期金利



(出所)ECB

株価 (Eurostoxx50)

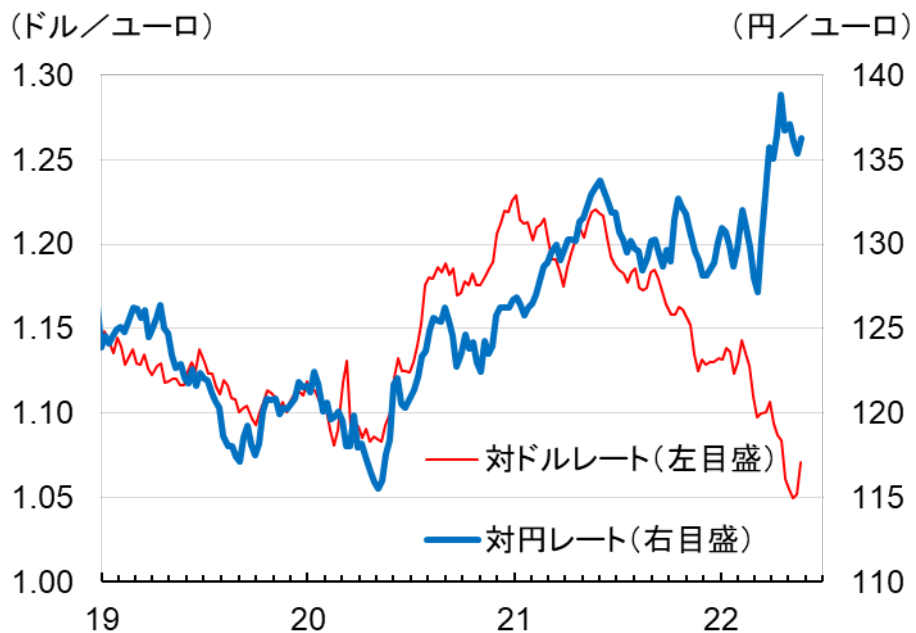


(出所)STOXX

ユーロ圏景気概況⑧ 対ドルで上昇、対円で横ばい

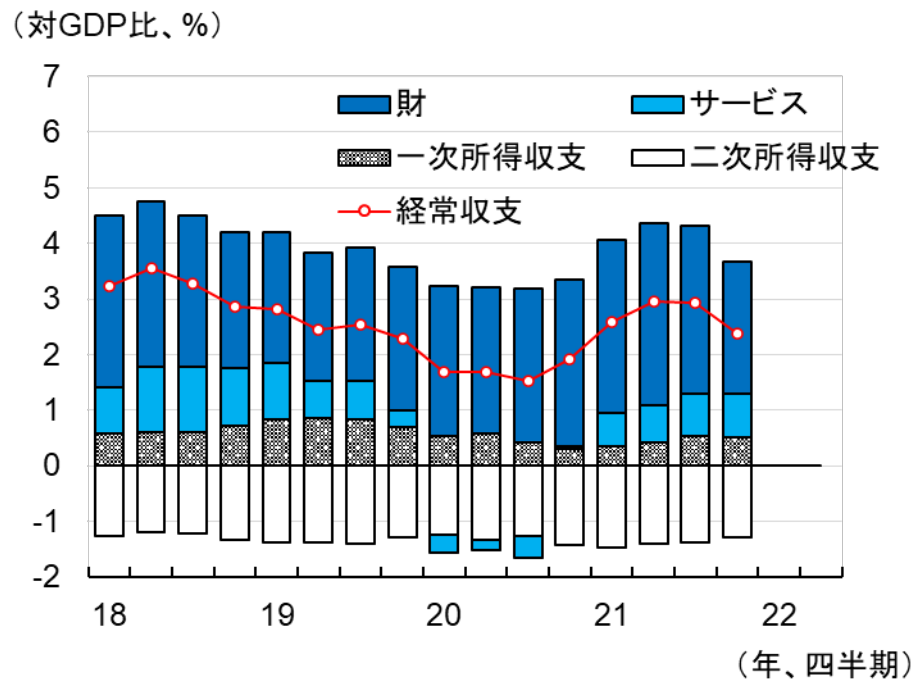
5月のユーロ相場は対ドルで上昇、対円で横ばい。対ドルだと月前半はユーロ安となったが、月後半はECBの利上げ観測を受けて上昇。一方で対円だと、月前半はユーロ安が進んだものの、月後半は持ち直し、一進一退となった。経常収支は財貿易収支の黒字幅が徐々に縮小しており、実需面からのユーロ買い圧力は弱まっている。

ユーロ相場



(注)週次レート
(出所)ECB

国際収支



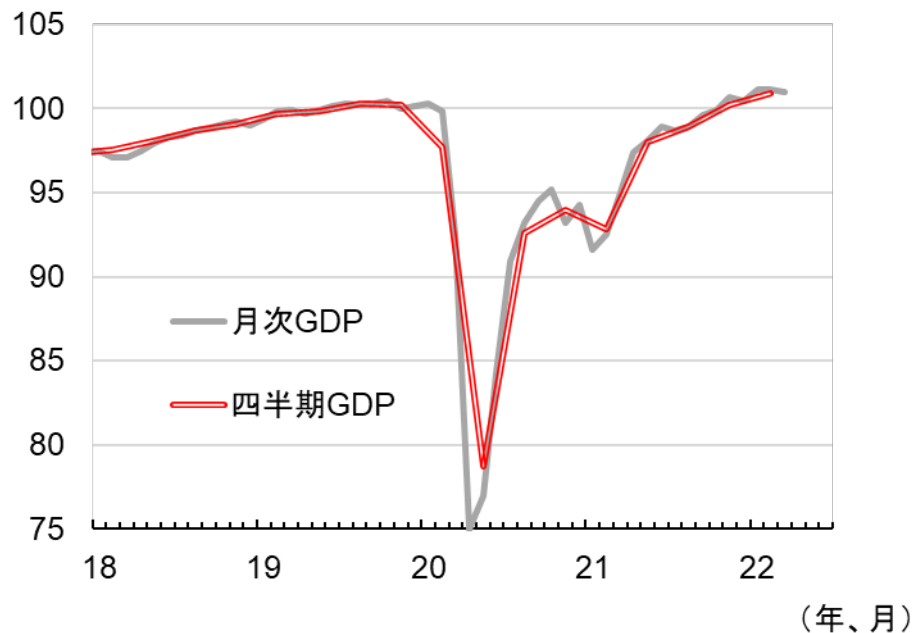
(出所)ECB

英国景気概況① 景気は回復している

英国の1-3月期の実質GDPは前期比+0.8%と、昨年10-12月期(同+1.3%)から伸びが鈍化した。産業別には、工業が伸びを加速させたが、反面でサービス業の伸びが鈍化した。また3月の月次実質GDPは前月比-0.1%と12月以来のマイナス成長に転じた。

実質GDP

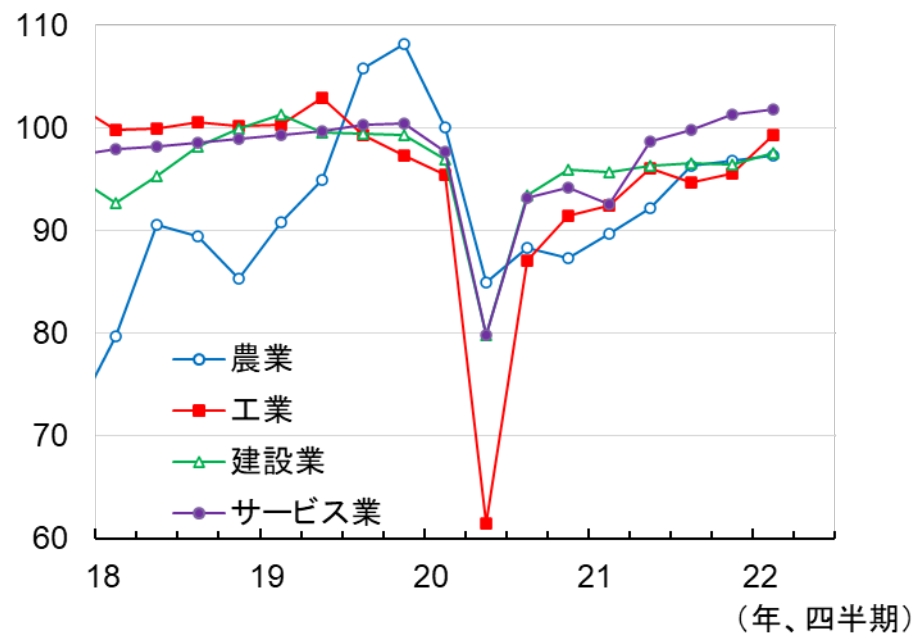
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

(2019年=100、季調済)

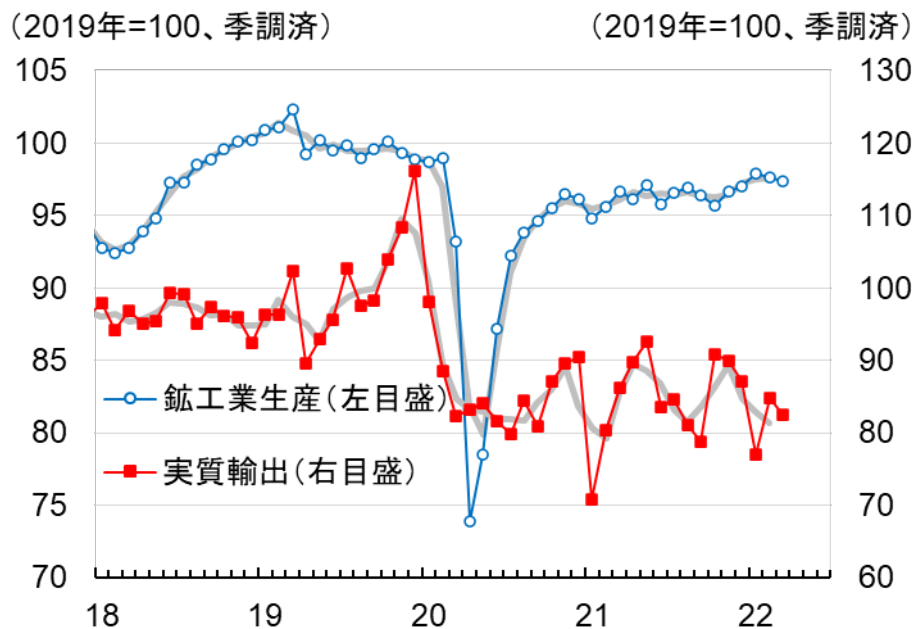


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は増加

英国の3月の鉱工業生産は前月比-0.2%と2ヶ月連続で減少したが、均した動きは上向きを維持。一方で、同月の実質輸出は同-2.8%と再び減少し、均した動きも下向きのまま。また3月のサービス生産は前月比+0.1%と増勢が鈍化したが、均した動きは上向きを維持。

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

英国景気概況③ 消費は低迷

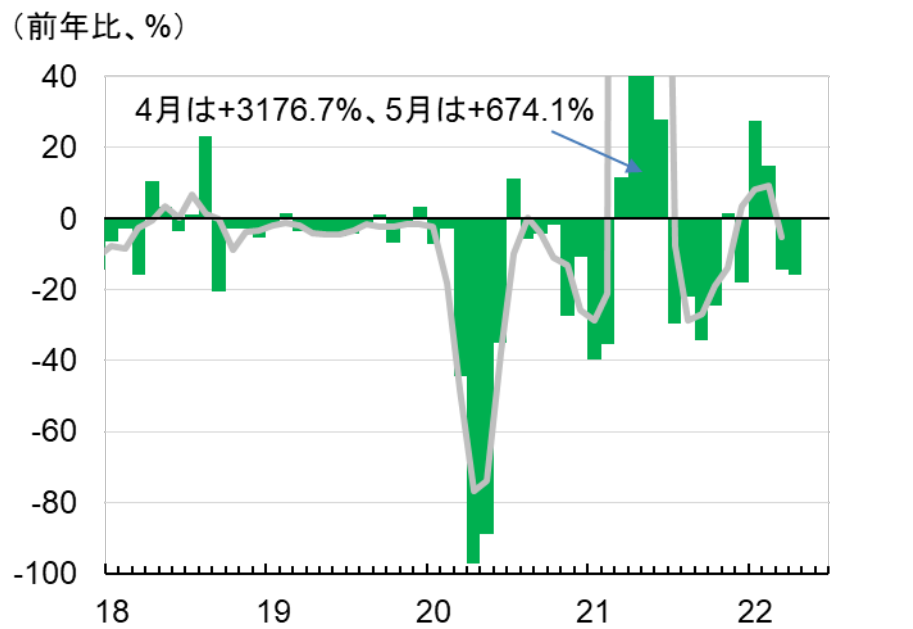
英国の4月の小売数量(除く石油)は前月比+1.5%と3ヶ月ぶりに増加し、均した動きも底入れした。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比-15.8%(11.9万台)と2ヶ月連続で前年割れとなり、均した動きもマイナスになった。ロシアのウクライナ侵攻に伴うサプライチェーンの混乱の影響を受けた模様。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

新車販売台数(乗用車)

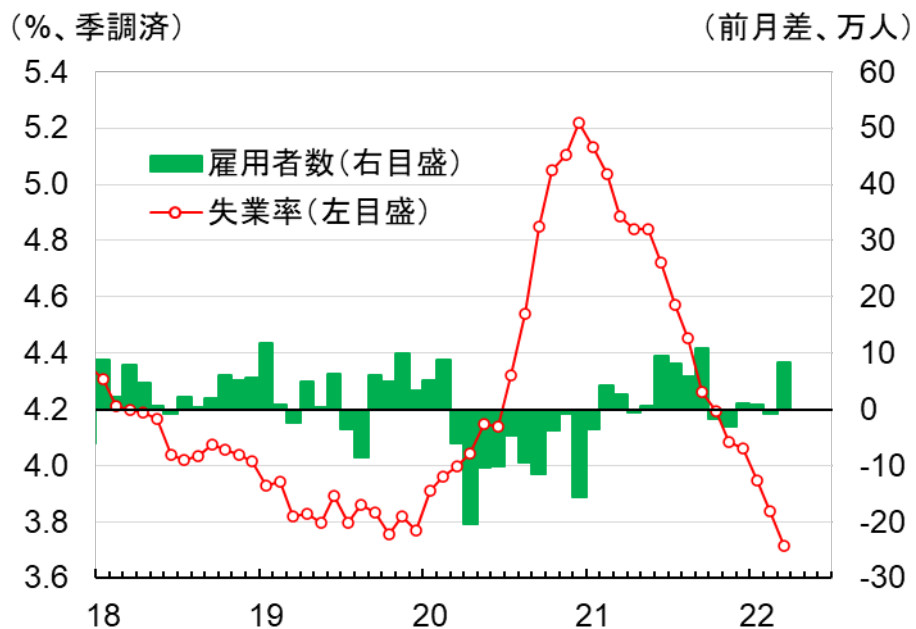


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS (年、月)

英国景気概況④ 雇用は改善

英国の3月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が3.7%に低下した一方で、雇用者数も前月比8.3万人増と再びプラスに転じるなど、雇用情勢は改善。均して見た賃金の増勢は名目ベースでは伸びが一段と加速し、また消費者物価で実質化した実質ベースでもプラス圏に回復した。

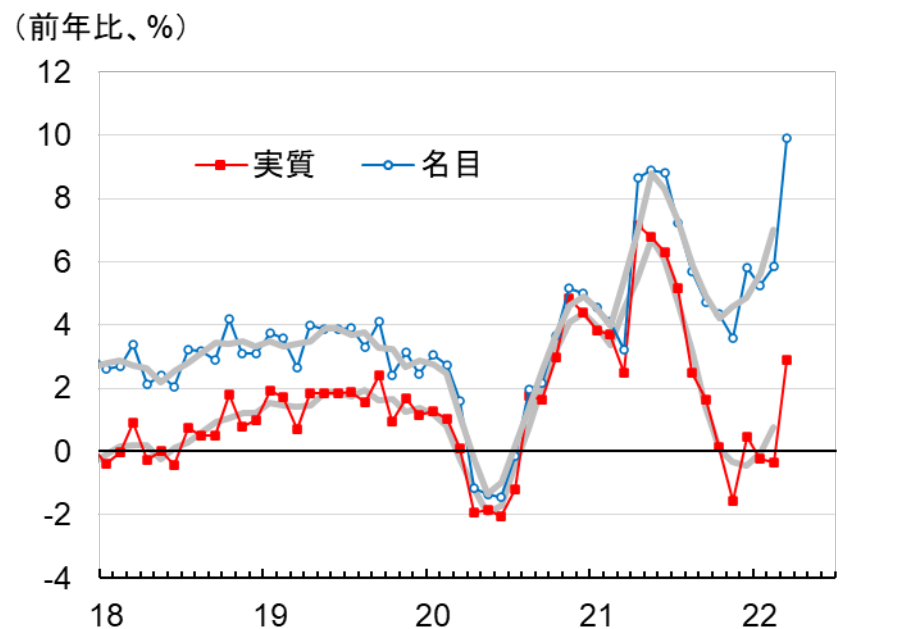
雇用統計



(注) 3ヶ月間の平均値
(出所) ONS

(年、月)

平均賃金(週給)



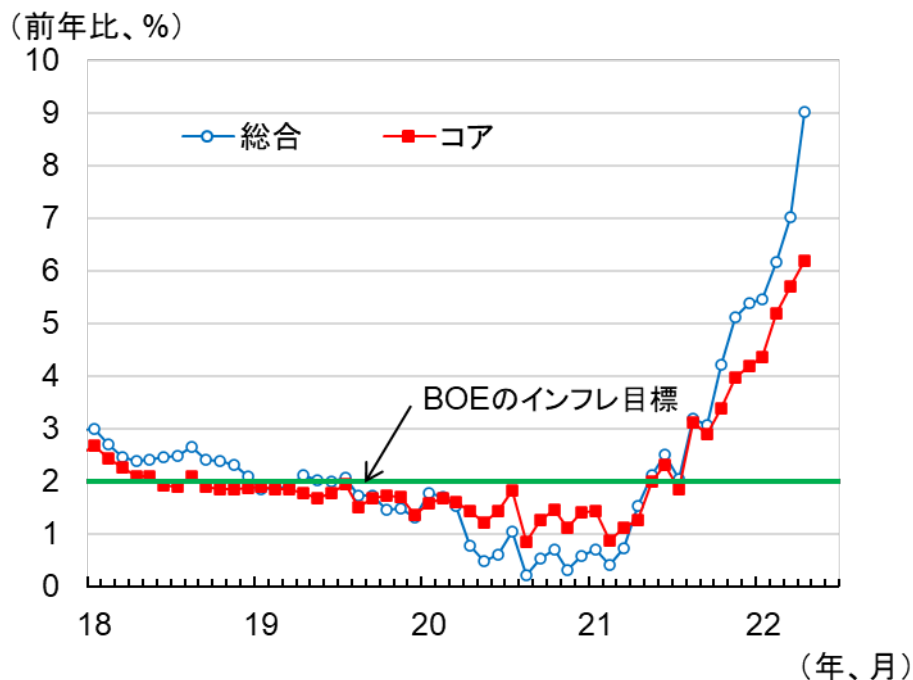
(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所) ONS

(年、月)

英国景気概況⑤ 物価はインフレが加速

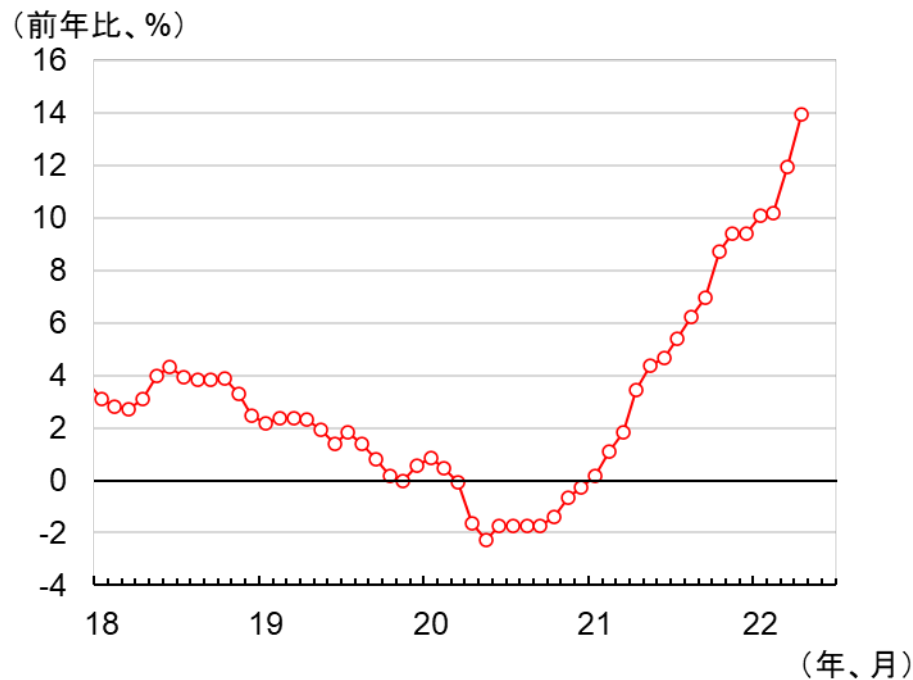
英国の4月の消費者物価は総合指数ベースで前年比+9.0%と、イングランド銀行(BOE、中央銀行)のインフレ目標を大きく上回っている。同月の生産者物価も同+14.0%と、前月(同+11.9%)から伸び幅が拡大、今後もインフレが加速する可能性を示唆。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

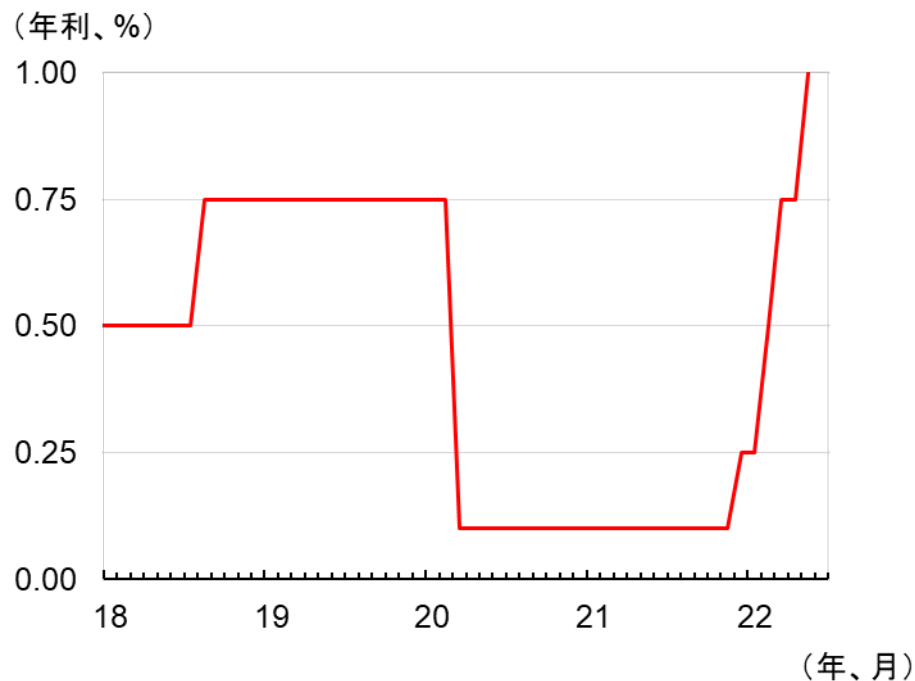


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは追加利上げを実施

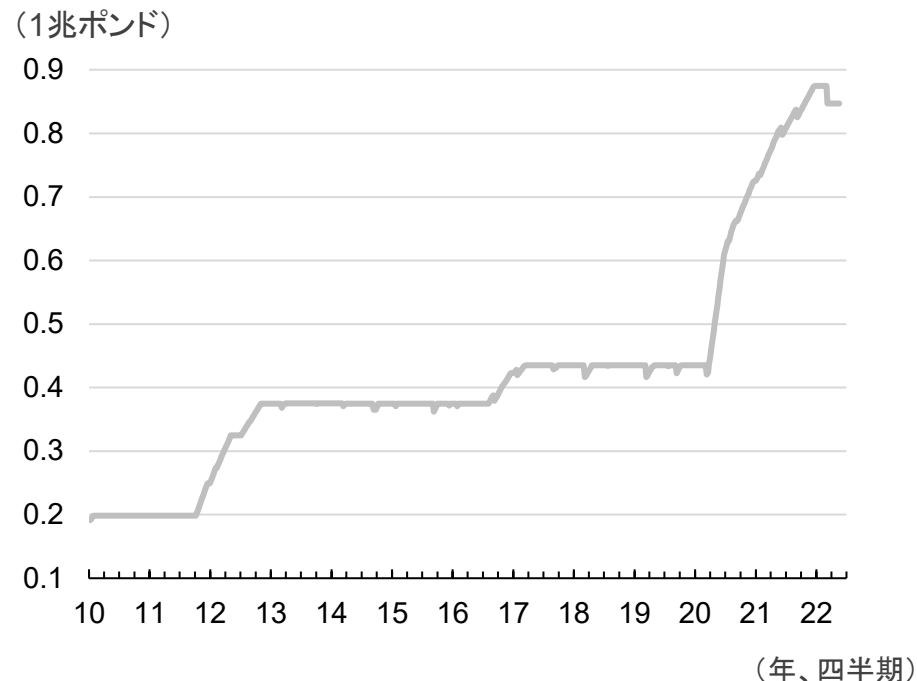
イングランド銀行(BOE)は5月5日に金融政策委員会(MPC)を開催、政策金利を0.75%から1%に引き上げた。またBOEは保有国債の売却計画の策定に着手し、8月の会合で示した上で、その後の会合で売却を開始するか決定するとした。次回のMPCは6月16日を予定。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高



(出所)BOE

英国景気概況⑦ 金利は低下後に上昇、株価は下落後に上昇

5月の英国の長期金利は低下後に上昇した。月前半はユーロ圏の金利低下の影響の流れなどを受けて金利は低下したが、月後半は上昇に転じた。一方で、株価(FT100指数)は下落後に上昇した。月前半は世界景気の減速懸念を受けて株価は下落したが、月後半は金融引き締めへの過度な警戒感が薄れて株価は上昇した。

金利



(出所)BOE

株価(FT100指数)



(出所)BOE

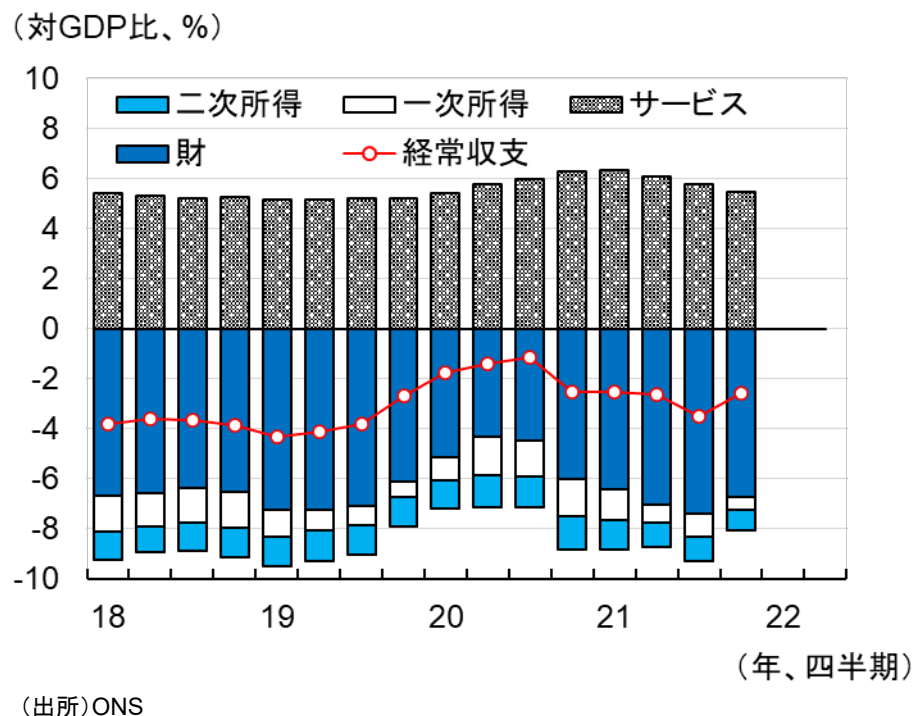
英国景気概況⑧ 対ドルで横ばい、対円で下落

5月のポンド相場は対ドルで横ばい、対円で下落した。対ドルでは、月前半はポンド安が進んだが、月後半は世界的なドル高一服の流れを受けてポンド高となり、一進一退だった。対円では、月前半はポンド安が進んだが、月後半はポンドがやや持ち直した。

ポンド相場



国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください